

フロアバレーボール事前講習会

講師

古村法尾（東京都盲人福祉協会理事・日本フロアバレーボール連盟会員）
 醬野隆行（日本フロアバレーボール連盟、副会長）
 小山美里（日本フロアバレーボール連盟、役員、公認審判員）
 井戸本将義（日本フロアバレーボール連盟、会員）

活動場所

南大沢キャンパス 体育館アリーナ
 2022年8月4日（木）

報告

フロアバレーボールは、どんなスポーツ？

8月4日(木)、南大沢キャンパス体育館にて、「フロアバレーボール事前講習会」を実施しました。この講習会は、10月に都立南大沢学園体育館で開催される「都立特別支援学校活用事業ブラインドパラスポーツ体験教室」運営のために、ルールを含めた知識を学ぶ機会として実施したものです。

フロアバレーボール講師による指導

信太先生のアレンジで、上記4名の講師に南大沢キャンパス体育館へお越しいただき、フロアバレーボール講習会の指導をお願いしました。今回は学生14名、職員4名で参加させていただきました。

コロナも最多の感染者数を更新している状況から、受付で全員が検温と手指消毒を実施してから、体育館の窓を開け、扇風機・送風機で換気を徹底しました。

コート設営は上手にできた？

講習会はコート設営からスタートしました。コートは成人6人制バレーボールで使用するコートと同じ規格ですが、コートのラインについては視覚障害者がラインの色を識別できるように配慮が必要です。ネットは床上に30cmの隙間ができるように張るため、ネットの上下にワイヤーが通された専用のネットを使用しました。それをセットするための支柱も高さを調整する必要がありました。会場の下見とコート設営に十分時間を取るのが大切だと認識しました。



競技練習で盛り上がり、難しさも体験

メインの競技講習では、フロアバレーボールを試合形式で行いながら、指導と解説を受けました。チームは前衛3名と後衛3名の計6名で構成され、前衛選手はアイマスクまたはアイシェードを着用するので、何も見えない状態でプレーします。フロアバレーボールでは、拳で



打ったボールが常に床面を転がります。

まず、サーブは、エンドゾーン右外側からボールをネット下を通して、相手側コートに転がします。通常のバレーボールと同じで3タッチでボールを相手コートに返します。後衛はボールの行く先が見えるので、始めは後衛同士のリターンが続きますが、前衛に味方3人・相手3人がしゃがんでいるのでボールが前衛に渡るプレーも出て来ます。最初、後衛は前衛に上手く声かけできず、前衛はうまくボールを止めて相手コートにボールをアタックする（転がす）ことができません。後衛の吐嗟の声かけで、いかに前衛がボールを止めて、相手コートにボールをアタックできるかがこの競技の大切なポイントです。

講師による指導でも、ゲーム後の参加者の感想でも、多くが『目の見える後衛』と『何も見えない前衛』との『選手同士のコミュニケーションがこの競技ではすごく大切だ』と言うことでした。後衛が前衛Aに「Aさん、右側1m先にボールがある」と伝えて、前衛Aが右に1m動いてボールを押さえてスパイクが打てるのが理想ですが、そこまでできなくても、後衛は前衛の名前を呼んで大きな声をかけ、前衛はその声を頼りにボールを押さえ相手コートにスパイクを打つことができるようになると、チーム全体も盛り上がり、皆がフロアバレーボールを楽しめるようになりました。

また、一緒に前衛に入った視覚障害2名の選手には素晴らしいプレイを披露していただきました。

約1時間半の事前講習会でしたが、10月の教室運営に向け、参加者全員がフロアバレーボールの楽しさと基本を知る大変良い機会となりました。『参加した皆さんはこの講習会で随分と進歩しました』と講師の方々からお褒めの言葉もいただきました。

プログラムメンバーの声

- ・前衛と後衛のコミュニケーションが難しかった。
- ・前衛になってアイマスクで目を隠し視覚障害者の経験をしたことは良い経験になりました。
- ・後衛になった際、前衛に吐嗟に声をかけることが難しく、わかりやすく具体的に伝えることがあまりできなかったように思う。
- ・前衛の人に声をかける際に名前がわからないと困るので、名札を背中につけるか番号で識別できるようにビブスを用意した方がよいと感じた。
- ・準備に時間がかかると思ったので、事前の体育館の下見、余計なライン消しなどをやっておく。
- ・初めて障害者スポーツの体験に携わりましたが、設営から実際の体験に至るまで、健常者による支援が大切であると思いました。